

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672300373
法人名	特定非営利活動法人 あじさい
事業所名	グループホームあじさい
訪問調査日	平成 21 年 2 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	672300373		
法人名	特定非営利活動法人 あじさい		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地 (電話番号)	山形県西村山郡大江町大字本郷丁10-1 (電 話) 0237-83-4177		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平21年2月10日	評価確定日	平成21年3月24日

【情報提供票より】(平成21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算	11人

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費400円/日、他実費
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	220 円	昼食 320 円
	夕食	260 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 880円		

(4) 利用者の概要 (1月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.9 歳	最低 80 歳	最高 100 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 霞晴堂 白田医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「この地域の住民として、生活者として社会資源を使い暮らせるように」「残された人生が充実した時間になるように支援します」を理念に掲げ町内会、自治会、地域の見守隊にも加入、町の防災訓練などにも参加し、地域との交流に取り組み、ホーム独自の避難訓練を毎月利用者と共に行い、災害対策に熱心に取り組まれているホームです。食事を楽しむ事も、利用者の望みを大事に捉え、今できる事をすぐに実行し、悔いのない人生を送っていただけるよう懸命な支援がなされているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとして何が大切かを職員で話し合い、理念を見直し、地域でその人らしく暮らしていける事に心掛け、災害対策においても、避難訓練は毎月定期的に利用者と一緒に行事に取り組み、サービスの向上に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行い、前回の外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し、積極的に取り組み、事業所の質の確保に活かされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年の評価の改善課題でもあり、推進会議も定期的に開催し、事業所の活動報告、利用者の一日の暮らしぶりをスライドで見てもらう等、民生委員から地域の情報、またメンバーからの要望で事業所の案内板を立てる等、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進委員会会議時、その他、家族の来訪時に意見要望を聞く機会を設けている。出された意見、要望は連絡ノートや、引継ぎ時に共有している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、自治会に加入し、事務長が商工会青年部という事もあり地域の見守り隊に加入し、町の防災訓練、地域の祭典等に参加して、地域との交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価の改善課題から、職員で話し合いを行い、理念を見直して、地域密着型サービスとして理念を作り上げており、地域でその人らしく暮らし続ける事を大切に支援することに心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示しており、職員は月2回の会議の中で確認をし、1日2回の引継ぎの際も振り返りを通して、どこまでも一人ひとりに合わせながら日々のサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、自治会に加入し、事務長が商工会青年部という事もあり地域の見守り隊に加入し、町の防災訓練、地域の祭典等に参加して、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、前回の外部評価の結果を踏まえ改善計画を作成し、積極的に取り組み、事業所の質の確保に活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の評価の改善課題でもあり、推進会議も定期的開催し、事業所の活動報告、利用者の一日の暮らしぶりをスライドで見てもらう等、民生委員から地域の情報、またメンバーからの要望で事業所の案内板を立てる等、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町からの委託を受けた事業所という事もあり、シニアセンター（温泉）で月2回行われる一人暮らしの高齢者のデイサービスに職員が出向き、「健康維持教室」を担当している。月に2回は町担当者に訪問し関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりは個人毎に写真を撮り、健康面は、通院記録、ケア記録、事故記録を毎月コピーをして、ホーム便りと一緒に個別毎に郵送し、面会時にも報告を行い家族とのきめ細かいやりとりが図られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会議時、その他、家族の来訪時に意見要望を聞く機会を設けている。出された意見、要望は連絡ノートや、引継ぎ時に共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は担当制にしているが、新人職員はいきなり担当制を持つのではなく、慣れてからということに心掛け、家族にも報告を行い、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、年2回職員と面接し、希望を取り入れながら内外の研修を受講できるようにしており、内部研修では音楽療法研修等、2グループに分け、リーダーを決めて行い、研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学や、交換実習等に参加し、交流を持ちながらサービスの質の向上を目指している。今後西村山地区の横のネットワーク作りの取り組みの検討をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	[小規模多機能型居宅介護のみ] ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の献立は利用者と決め、得意分野で夕食時には利用者自ら支度をする事もあり、菜園の収穫、梅干作り、味噌作り、誕生会にはケーキ作りをする等、一緒に過ごし支え関係ができている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月一度、利用者との面談をし、健康面、困った事等の、聞き取りの機会を設け、日々の会話からも想いを汲みとるように心がけ、家族の話を聞いたり、昔住んでいた家への訪問等、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用し、利用者との毎月の面談の中から、本人の視点に立ち、家族の意思意向の把握に努め、振り返りの記録、月2回の会議から気づきを共有し本人本位の計画作成がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状態に変化があった場合は、本人、家族の要望に応じて定期的に見直しを行い、体重増加等、予防的に対応していく為の介護計画も行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	[小規模多機能型居宅介護のみ] ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	希望するかかりつけ医や専門医には職員が付き添い 情報提供している。毎月協力医の往診があり、全員が 診てもらい、受診結果は月毎のお便りと共に家族に報 告し、職員全員で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	最後までお付き合いをするというホームとしての方針を 定め、入居時から本人、家族と話し合い、変化に応じて 主治医や関係者と相談しながら、チームで方針を共有 している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	職員は日々の声がけや態度に気くばりをし、個人情報 保護法を理解し、薬や個人記録の管理にも配慮してい る。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の希望を第一 に考え、その人らしい一日が送れるよう事業所のペー スにならないように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の献立は利用者がその日の午前中に考え、買い物から調理まで一連の作業を職員と利用者が一緒に行い、作る喜びから食べる喜びまで味わっている。自家菜園や差し入れの食材を上手に取り入れ、季節の行事食や手作りにこだわり、「食」を大切なものと考えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する曜日、時間に入浴することができる。入浴を拒む方にも工夫し、温泉なども利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は何気ない会話の中から、やりたい事、楽しみ、得意分野などを引き出す工夫をし、日々の生活に活かしている。また季節や昔の行事を大切に、笹巻き作り、干柿作り、味噌煮、梅干作り等、利用者から学ぶことも多く、外出にも力を入れ全員で一泊旅行も出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望する外出、外食を積極的に支援し、近隣の散歩や買い物にも出かけ、地域見守り隊の活動に参加したり、地域の人々との交流を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	夜間を除き日中は玄関に鍵をかけず開放し、職員は利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、希望する外出にはさりげなく声がけしながら付き添い、安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回開催される町内の防災訓練に参加し、毎月ホーム独自の避難訓練を実施しており、その成果も出ている。避難場所の確保や、水、毛布、使い捨てカイロなどの備蓄もしており、スプリンクラー、通報装置の設置も計画中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎日の食事や水分の摂取量をチェック表に記録し、栄養や健康状態を把握し、職員が情報を共有している。管理者が食生活改善推進委員になっており、勉強会に参加し栄養士によるアドバイスも受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールを中心に各居室があり、全体が見渡せるようになっており、天窓から明るい日差しが差し込み窓の外には花壇が見えて、畳屋やコタツもあり、安全面にも配慮しながら、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ち込み、プライベートな居室として、落ち着いて安心して過ごせるようになっている。温度、湿度、換気にも配慮している。		